

震災後初となる石炭船が入港

火力発電所向け石炭の荷揚げ

11月30日、相馬港に東日本大震災後、初となる石炭船(外航)が入港しました。

荷揚げされた石炭は、相馬共同火力発電(株)新地発電所で使用されます。現在、同発電所は震災により運転を停止しておりますが、12月以降、順次運転が再開される予定です。

○入港船

- ・船名: SHUNWA
- ・総トン数: 17,025トン
- ・船籍: パナマ
- ・積載貨物: 石炭(約27,000トン)



▲接岸直後の「SHUNWA」



▲石炭の荷揚げ作業

